

第3章 武蔵野市の産業の特性と課題

1 武蔵野市のあゆみと地域特性

(1) 武蔵野市のあゆみ

明治22(1889)年、吉祥寺、西窪、関前、境の4カ村と井口新田飛地が1村となり、武蔵野村が誕生しました。甲武鉄道(現在のJR中央線の前身)が開通し、境停車場(現在の武蔵境駅)が開設され、その後、明治32(1899)年には吉祥寺停車場(現在の吉祥寺駅)も開業し、その頃には市街地が形成され、商店街も出現したといわれています。

昭和5(1930)年には、三鷹駅が開設されたほか、昭和13(1938)年に中島飛行機武蔵野製作所(後の武蔵製作所)ができたことによって、西久保地区などには軍需関連産業(工業)が増えていきました。

昭和22(1947)年11月に都内で八王子市、立川市に次いで、3番目の市となり、令和4(2022)年に市制施行75周年を迎えました。

昭和30年代後半からは、都市基盤の先導的な整備によるまちづくりと商業振興とが相まって、利便性の高い住宅都市として発展してきました。

都内有数の商業集積地と言われる吉祥寺駅周辺は、大型商業施設を核として回遊性の高いまちが形成されました。これには、百貨店が吉祥寺駅周辺商業地の核として魅力を与え、ひいては地元商店街の活性化を促進するという武蔵野商工会議所や商店会等からの意見に基づき進めた、昭和46(1971)年の伊勢丹吉祥寺店に始まる百貨店の誘致・出店が大きな役割を果たしています。

三鷹駅周辺は、事業所が集積する一方、総合設計制度*による超高層マンションが建設されるなど、住む人、働く人に利用されるまちになっています。

武蔵境駅周辺は、鉄道の連続立体交差事業*により、南北一体のまちづくりが進み、鉄道高架下には、現在、西側に向かって商業施設と歩行者空間が連なり、新たなまちづくりが展開されています。

武蔵野市では3駅周辺における産業振興のみならず、緑と水のネットワーク*の推進等に努め、都市農地や屋敷林等を地域資源として保全・活用することで、緑豊かで利便性の高い暮らしやすい住宅都市を形成してきました。

また、計画行政によるまちづくりは、堅実な行財政基盤を築き、必要な財政支出を行うことで、生産機能や生活機能の向上などの好循環を育んできました。この好循環の維持には、行政による事務・事業執行だけでなく、地域生活を支える事業者等の知恵や努力、市民のまちへの愛着や理解、協力が大きく寄与してきた結果と言えます。



昭和40年代の駅前通り
(現サンロード)



昭和50年代の現すきっぷ通り



昭和40年代の三鷹駅北口



現在のサンロード



現在のすきっぷ通り



現在の三鷹駅北口

(2) 武蔵野市の地域特性

時代の変遷とともに人口が増加してきた本市は、市内産業発展の糧となる豊富な地域特性を有しており、これらの地域特性を産業の活性化に活用していくことが重要となっています。

良好な住環境

都心からのアクセスが良く、市内の公共交通網も充実しています。また市立公園などのまとまった緑が玉川上水の水辺空間や街路樹、緑道等で結ばれ、さらに住宅街の花と緑があいまって、緑豊かな住環境を形成しています。生活必需品等の買い物にも便利な商業地域を有し、民間調査では住みたいまちとして、継続的に高い評価を得ています。

クリエイティブ産業の集積地

ものづくりやデザイン、アートに関わるクリエイターや関連事業者が集積し、クリエイティブな活動がまちの特徴となっています。

また、日本から世界に羽ばたくアニメや漫画など、サブカルチャーの中心地としても注目を集めるほか、数々のアニメ等の作品の舞台としても取り上げられています。

香り高い文化が根付く地域

数多くの文化人、作家、芸術家から活動拠点・居住地としても選ばれる地域となっており、昭和39(1964)年に開館した武蔵野公会堂を皮切りに、音楽、芸術、演劇等を享受できる多彩な文化関連施設を順次整備し、まちでは様々な音楽イベントなども行われてきました。

多くの大学が立地する文教都市

市内には、私立大学4校と、専修学校5校が立地しています。また、近接する自治体には、大学が19校、短期大学2校、専修学校・各種学校24校があり、学生が多く若者のまちを形成しています。

自然・観光資源

吉祥寺駅に近接する井の頭恩賜公園や井の頭自然文化園は貴重な自然・観光資源です。加えて市内には個性的な店舗も多く、それを求めて訪れる来街者も珍しくありません。また、まちのイベントや文化的プログラムも人が訪れるきっかけとなっています。

まちを豊かにする都市農業

都市農業は、新鮮な農産物の供給に加えて、農業体験などの交流機会の創出、地産地消、食育のほか、景観形成や環境保全、防災など生活基盤の向上にも寄与しています。

特色ある3駅の産業集積

市内全体の事業所数比率は「卸売業、小売業」が最も高く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「不動産業、物品賃貸業」と続き、この3業種が全体の5割強を占めます。そのうえで、3駅周辺(吉祥寺、三鷹、武蔵境)では、それぞれの異なる特色を持って、相互にまちの魅力を高めています。

吉祥寺駅周辺は大型商業施設と商店街が混在し、個性的な飲食店などが多くにぎわいを形成しています。

三鷹駅周辺は、計測・制御機器の世界的企業や大手外食チェーン店の本社などが立地する業務機能地域と商業地域から形成されています。

武蔵境駅周辺は、武蔵野プレイス*や近隣に大学等がある文教エリアです。駅前商店街や大型商業施設のほか、桜堤地区には、特徴的な住宅兼店舗物件なども登場しています。



2 武蔵野市の産業の現況と課題

(1) 個性的で魅力あるまちづくり

① まちの魅力向上と新たな魅力づくり

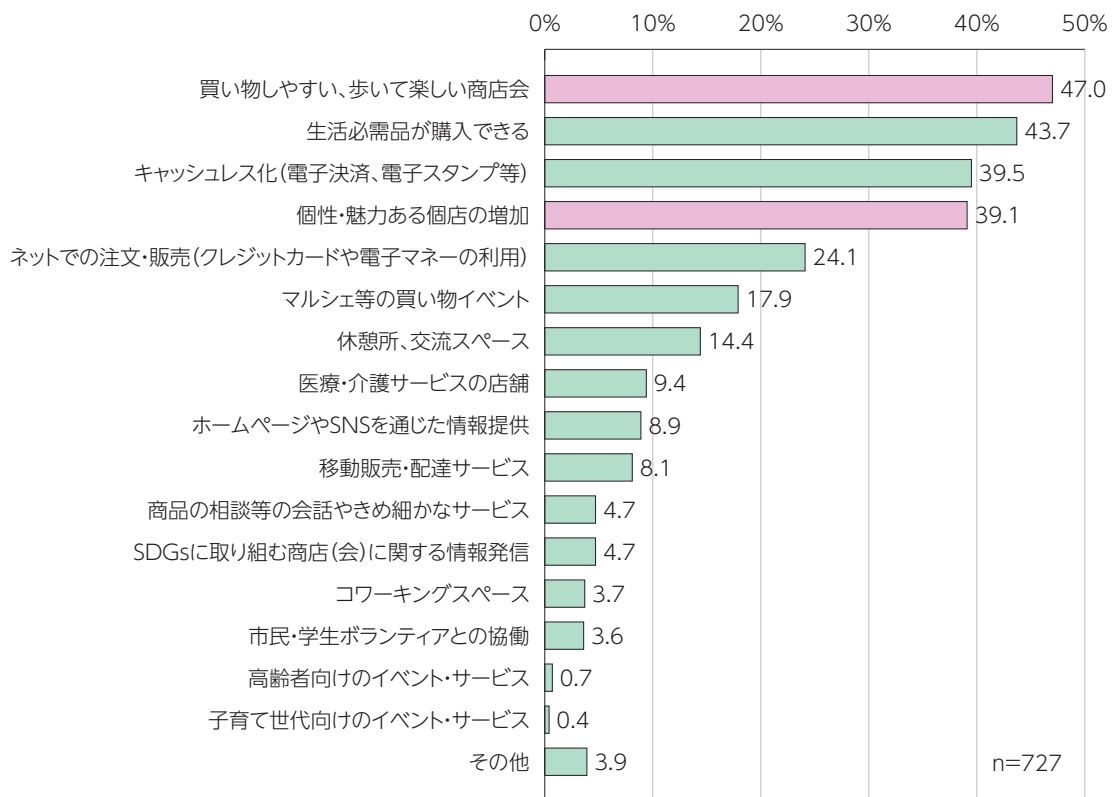
3 駅を中心とした商業地は、それぞれに個性を持った店舗が多く、市内外から多くの来街者を引き付けてきましたが、コロナ禍以降、その賑わいは以前に比べ減少しています。

市民アンケート調査及び近隣住民アンケート調査結果からは、市民や来街者など、誰もが安心して訪れることができ、「買い物しやすい、歩いて楽しい商店会」や「個性・魅力ある個店の増加」への関心が高いことがうかがえます。

まちの魅力向上と新たな魅力づくりは、持続的に図っていく必要があり、特徴ある産業や観光資源等に加えて、個性を持った事業者やクリエイターが活躍できる場づくりが求められます。

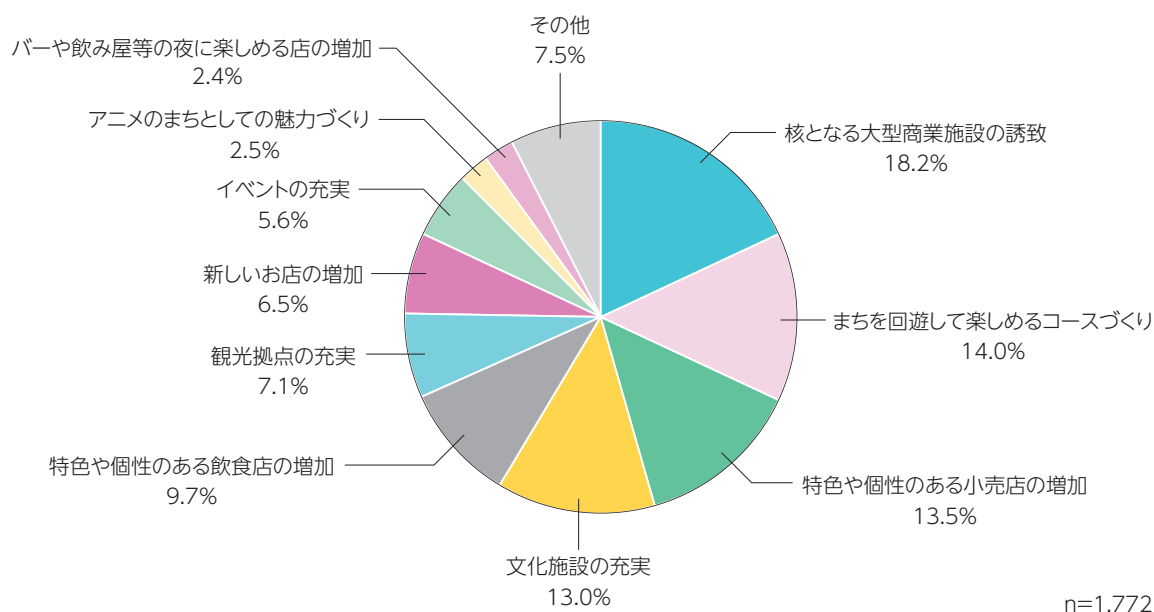
また、新たな魅力づくりとして、異業種間連携の促進や社会実験などを検討していく必要があります。

市内の商店会に望むこと



出典:武蔵野市「武蔵野市市民アンケート調査結果 令和4(2022)年」

今後、武蔵野市の魅力を高めるために必要と思われること



出典：武蔵野市「武蔵野市近隣住民アンケート調査結果 令和4（2022）年」

② 地域密着型の都市観光の推進

新型コロナウイルス感染症は、緊急事態宣言等による外出・行動制限や、国際的な往来の制限など、観光需要に影響を与え、本市においてもインバウンド*の来訪が激減しました。

現在は、インバウンド*を含め、来街者数は回復傾向にあります。インバウンド*のみならず、特徴ある商業地域や自然、文化等を活用した、発見や体験を楽しみ、消費する、地域密着型の都市観光の推進を図っていく必要があります。

③ 都市農業の魅力の活用

農地は、新鮮で安全な農産物の供給だけでなく、防災機能などの多面的機能により市民生活を支えています。今後も農業の担い手の育成と承継支援を図り、営農者の確保と、農地保全を図っていくことが必要です。また、営農者の安定した農業経営に向けた支援や販売促進、農産物を活用した他業種との連携を促進していくことが求められます。このほか、関連計画と連動した農を通しての食育の推進と、市内産農産物の学校給食への提供については、農業振興基本計画で定める使用割合目標の達成を目指し、利用促進を支援していく必要があります。

④ 効果的な情報発信

ICT*が急速に進展したことで、情報の受発信エリアが拡大し、容易に幅広い対象者への発信が可能となったほか、伝えることができる情報量が格段に増加しています。また、発信手法も多様化しているため、世代によって情報を受信する方法が異なることも特徴です。

今後、市は、情報を伝えたい対象に“伝える”工夫や、情報を求めている人に“伝わる”工夫を行っていくことが求められており、そのために適した手法を意識することが必要です。また、事業者等が効果的な情報発信を行うための支援も必要となっています。

(2) 様々な連携の創出と促進

① 事業者等との連携

本市では、事業者からの新たな商品開発や販路開拓に向けたビジネスマッチングを望む声を受けて、市と武蔵野商工会議所が連携し、事業者同士の連携を創出・促進して、新しい商品や事業を開発するきっかけをつくるためのプラットフォーム事業「CO+LAB MUSASHINO (コラボむさしの)」*を令和4(2022)年度から試行実施しています。

初年度は、これまで接点が少なかった、農家と飲食店事業者の交流会(農家見学会)を開催し、一定の成果を得ました。現在も、交流会への参加などを通して、市内産の農産物でつくるコラボ商品の開発が進んでいます。

また、本計画の策定にあたって実施した市民等ワークショップでは、商工団体関係者や学生、市民が交流・意見交換を行い、事業者間だけでなく、商店会と個人など、多様な主体がマッチング、コラボレーションできるプラットフォーム(つながる場)を求める声が寄せられたことから、既存事業を基盤として新たな価値創造や課題解決に向けた連携を生み出す仕組みや機会づくりの充実を図っていく必要があります。



CO+LAB MUSASHINO 農家見学会の様子

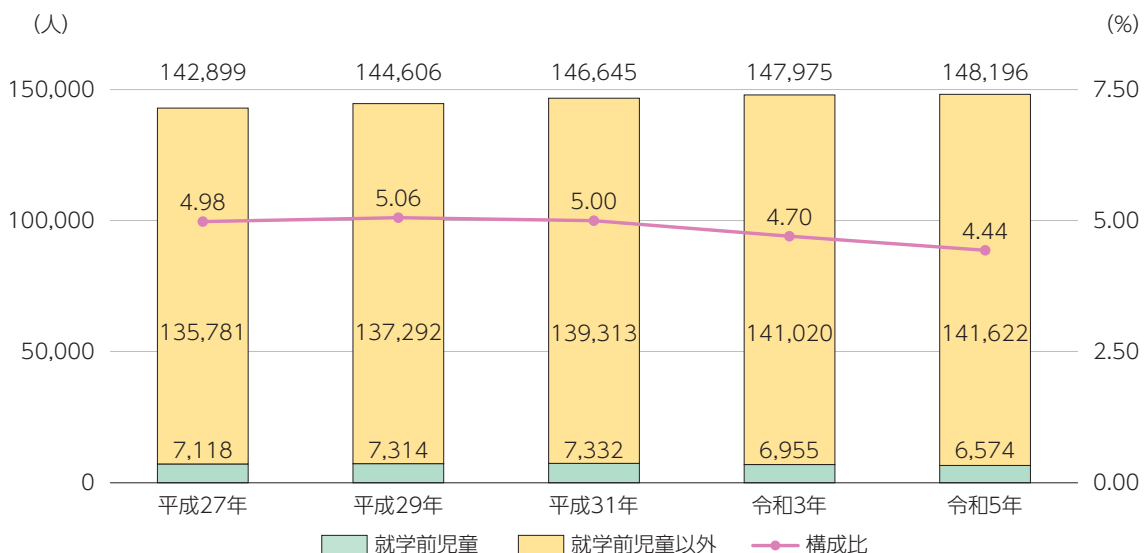


CO+LAB MUSASHINOによる商品の販売

② 子ども・子育て世代と創るまち

本市の就学前児童数は、横ばいで推移しています。今後、市内の商店会などが事業発展していくためには、買い物やイベント、事業サービスを、子どもが育ち、子どもや子育て世代が楽しめるという視点で行うことが重要です。また、商店会や事業者と市が、子ども、子育て世代と関わりを持ち、意見交換をできる場づくりを行うなど、子ども、子育て世代とともにまちを創り、魅力を発信するための検討が必要です。

就学前児童数の推移

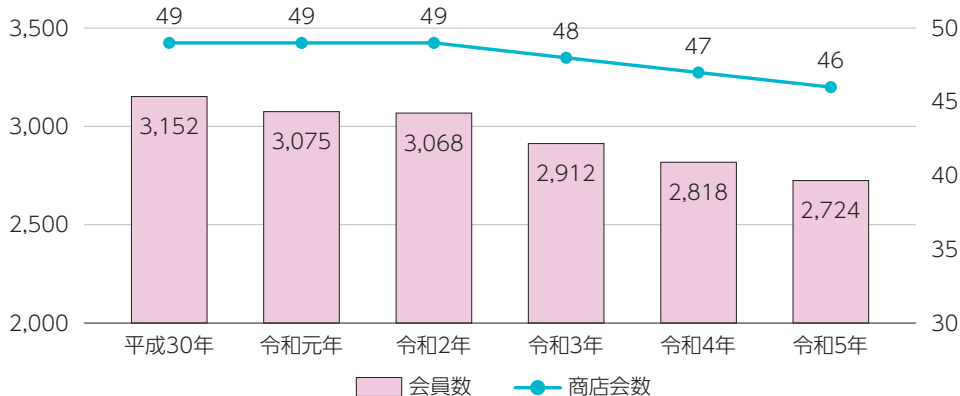


出典：武蔵野市「住民基本台帳」(各年4月1日現在)

③ 商店会の担い手確保、活性化

市民や来街者の消費行動を支え、地域コミュニティの中核的役割を担う商店会では、担い手不足が深刻化し、商店会の存続が危ぶまれています。そのため、運営が安定するための支援や、地域ごとに存在する課題に対応した支援のあり方について検討していく必要があります。また、商店会活性化の手法の1つとして、学生などの若者、子どもや子育て世代、事業者等との新たな協働・連携した取り組みも検討していく必要があります。

商店会数と会員数の変遷



出典：武蔵野市商店会連合会「武蔵野市商店会連合会データベース」令和5(2023)年

(3) 事業が持続・発展する環境づくり

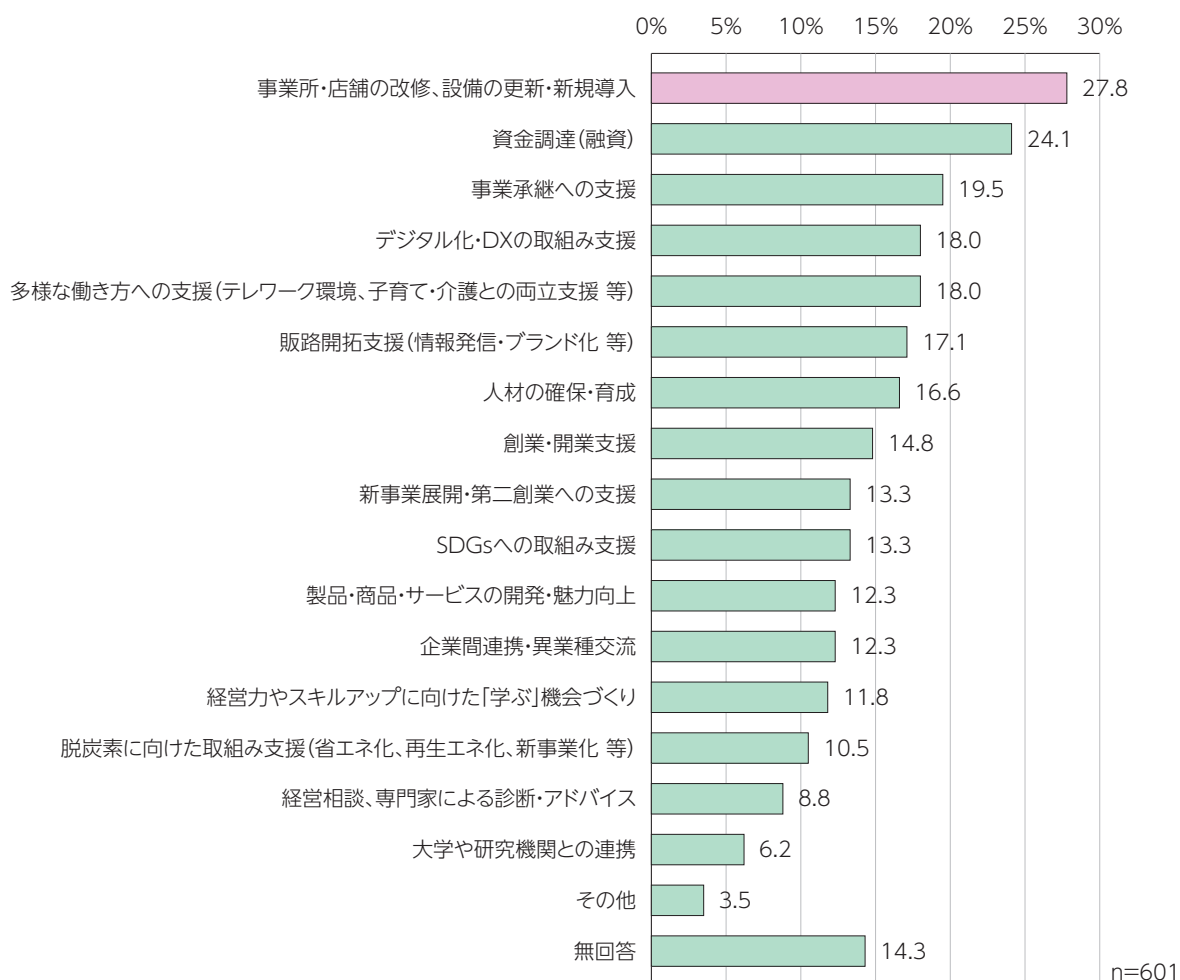
① 高付加価値化*、稼ぐ力の育成

本市は交通の利便性が高く、特に小売・サービス業に対する事業環境が整っているとと言えます。一方では、他の地域と比べて高い傾向にある家賃などの影響により、事業コストが高くなり、事業コストと営業収益のバランスをとることが難しい面もあります。加えて、昨今の原油高や物価高騰は、その傾向に拍車をかけています。また、市民1人当たりの年間小売販売額、小売吸引力指数*は減少に転じています。

このような環境下において、事業を持続・発展させるためには、事業者が、個性的で魅力ある商品やサービスを提供するための工夫を続け、事業の付加価値を高め、収益を確保していくことが必要です。また、地域特性や市民・来街者が求めるニーズ、市民・来街者からの評価（ブランドやイメージ）を事業展開に生かしていくことで、さらなるまちの魅力づくりにつながることが期待されます。

また、古くから事業を営む事業者が、事業の高付加価値化*や事業継続していくためには、事業所・店舗の改修、設備の更新・新規導入等の設備投資も重要であり、事業者アンケート調査結果においても支援ニーズが高いことがうかがえます。

充実してほしい支援策

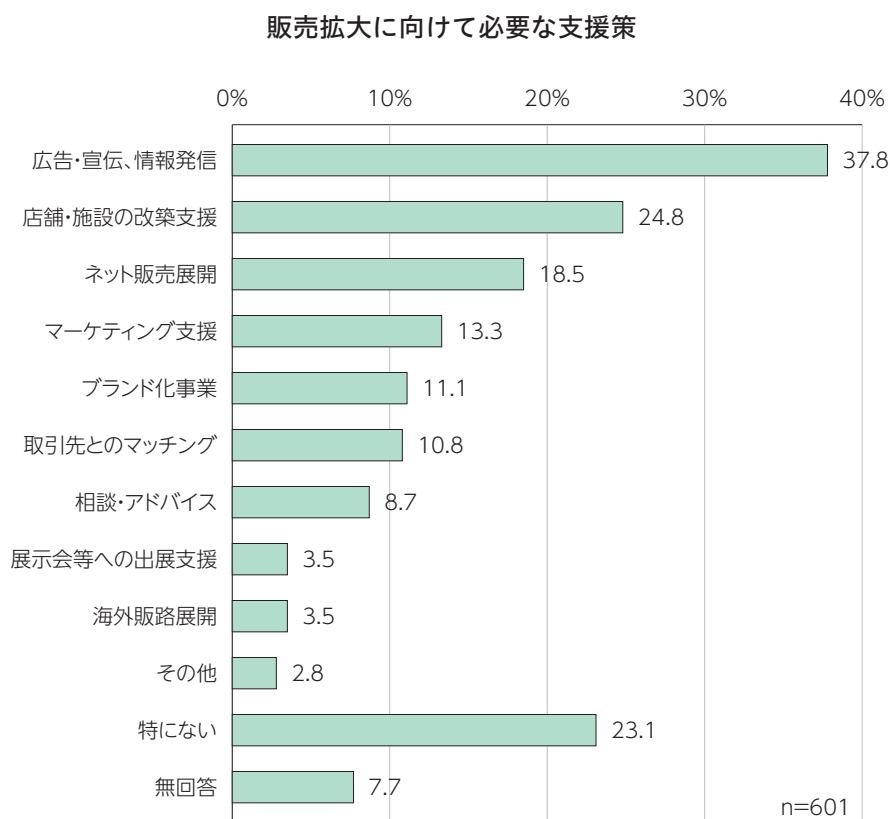


出典:武蔵野市「武蔵野市事業者アンケート調査結果 令和4(2022)年」

② 事業の持続・発展のための支援

新型コロナウイルス感染症により、多くの事業者の売上高が大きく減少した中、事業の持続・発展のための支援が重要となっています。

事業者アンケート調査結果から、販売拡大に向けて必要な支援策をみると、広告・宣伝、情報発信への支援が最も求められています。消費者等に対してより効果的な情報発信を実施することが重要となっており、適切な事業者支援をしていく必要があります。



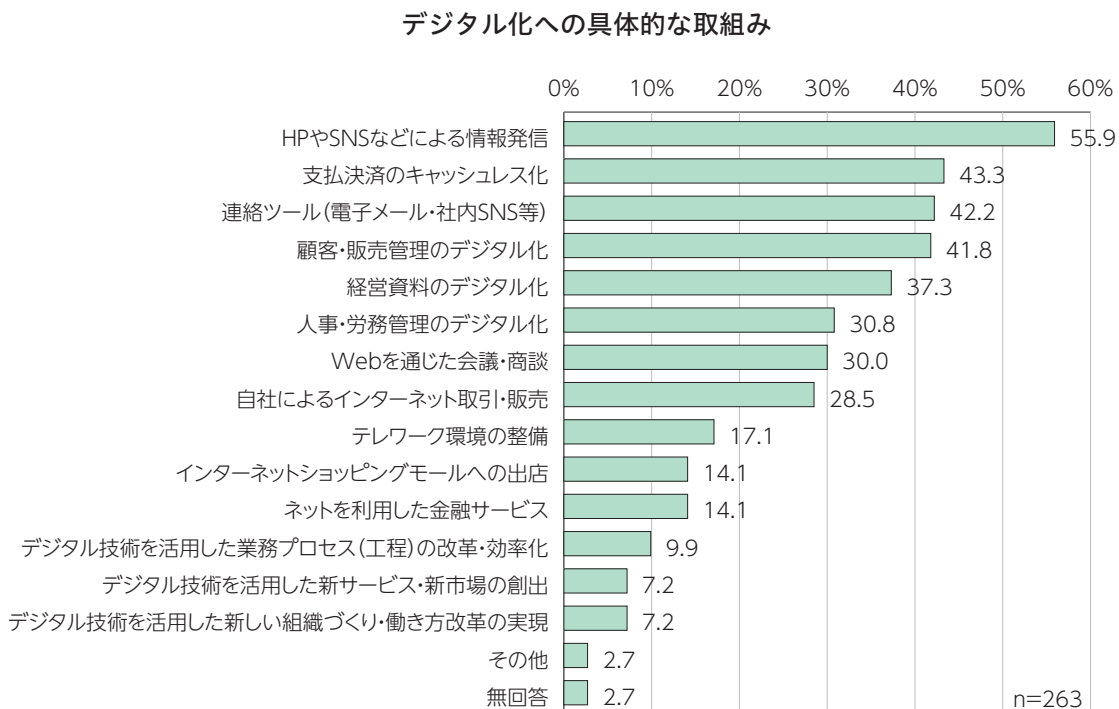
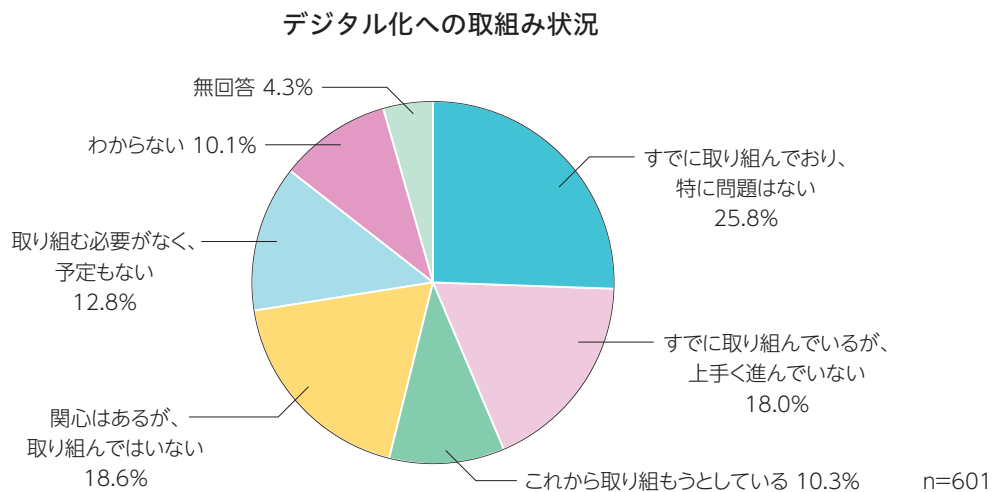
出典：武蔵野市「武蔵野市事業者アンケート調査結果 令和4（2022）年」

③ 様々なデジタル化への対応

事業者アンケート調査結果から、様々なデジタル化への対応については、4割強の事業者が取り組めていない状況がみられます。一方で、取り組んでいる事業者も同じく4割強いますが、具体的な取組みの実施割合をみると、どの項目も実施割合は低い傾向にあり、最も取り組まれている「HPやSNSなどによる情報発信」も5割強に留まる状況です。

その他の項目でも、経営や人事などの内部事務のデジタル化に至っては3割程度、キャッシュレス化の対応も4割程度であることから、今後、事業者の取組み実態とニーズに応じた支援を行っていくことが必要となっています。

また、テレワーク環境の整備についての取組みも少ないことから、多様な働き方を実現し、様々な人材が活躍できる雇用環境づくりへの支援も必要であることがうかがえます。



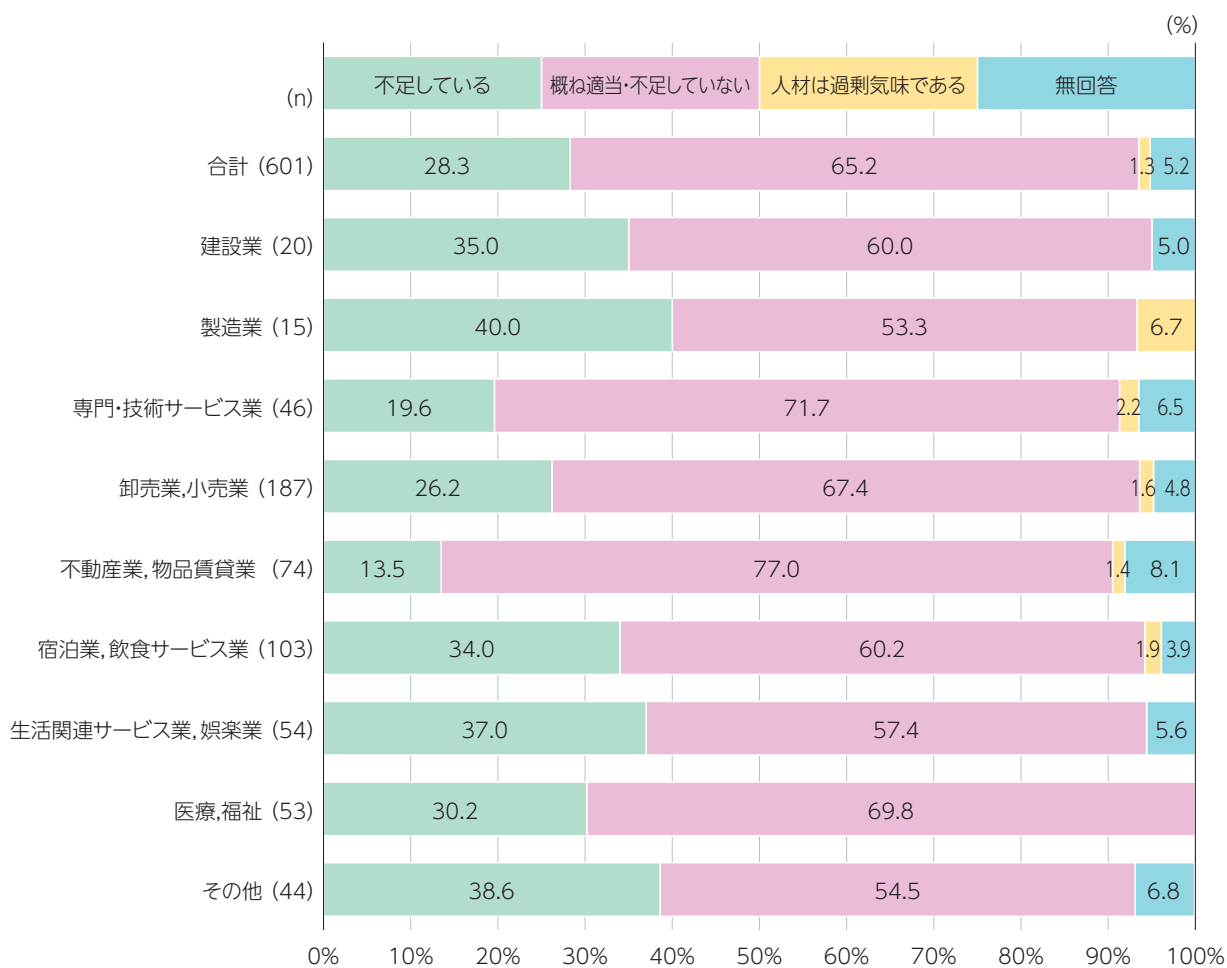
出典：武蔵野市「武蔵野事業者アンケート調査結果 令和4(2022)年」

④ 人材不足への対応

事業者アンケート調査結果をみると、事業者の3割近くが人材不足と認識しており、人材の確保・育成は喫緊の課題となっています。業種別では、「建設業」、「製造業」、「宿泊業, 飲食サービス業」、「生活関連サービス業, 娯楽業」、「医療, 福祉」で3割を超えています。

今後の人材確保のためには、個々の価値観やライフスタイルに合わせた働き方の実現に向けた環境づくりが必要です。また、人材の育成においては、ICT*技術の発展に伴うニーズに対応するためのスキル習得等による業務効率向上の取組みなどを支援していくことが必要です。

人材の確保状況



出典: 武蔵野市「武蔵野事業者アンケート調査結果 令和4(2022)年」

⑤ 多様な人材が活躍できる環境づくり

ライフスタイルや働くことへの意識の変化により、働き方の多様化が進んでいます。多様なキャリア形成を図っていくため、副業・兼業ができる企業も増え、また、デジタル技術の急速な進展によって新たな職業や仕事も生まれています。今後は、副業・兼業や学びなおし(リスキリング)を希望する人など、多様な人材が自己実現に向けてチャレンジできる環境づくりを行っていくことが市内産業の持続・発展においても重要となっています。

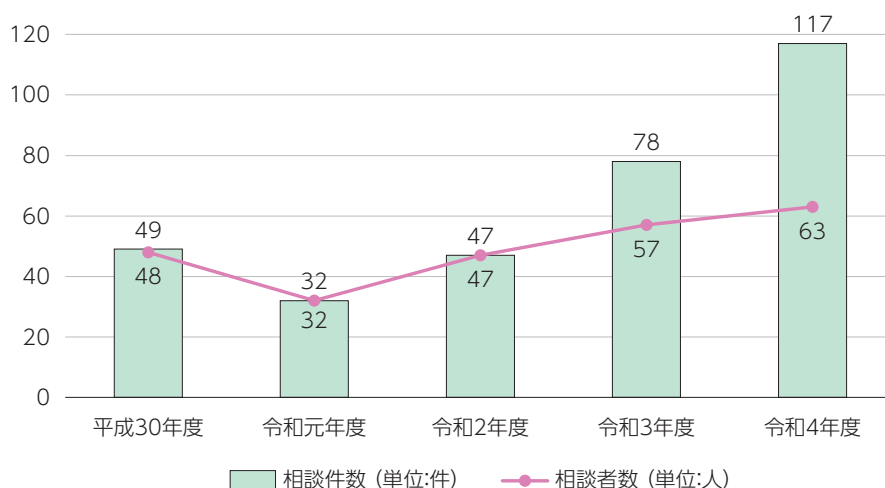
(4) 起業・創業・事業承継支援

① 起業・創業支援

本市では、「むさしの創業・事業承継サポートネット*」として、武蔵野商工会議所や金融機関、不動産協会等が連携し、ワンストップ相談を行っています。その相談件数は、年々増加傾向にあり、本市における起業・創業に向けたニーズが高いことがうかがえるため、希望する方が相談しやすい環境づくりや認定創業支援施設*等との連携を図っていくことが必要となっています。また、事業を軌道に乗せるための成長支援も重要であり、起業後の伴走型支援*の充実も図っていく必要があります。

さらに、女性や若者、シニア層が起業にチャレンジできる環境づくりや、子どもへのアントレプレナーシップ(起業家精神)教育も重要となっています。

創業相談件数及び相談者数の推移



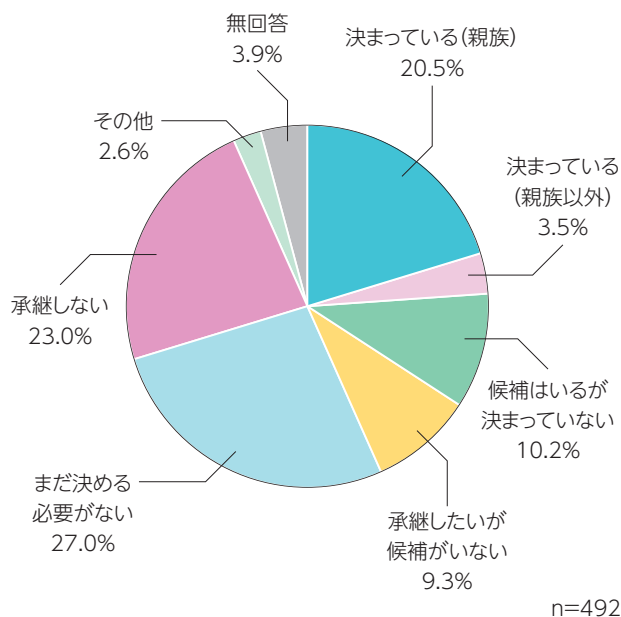
出典:武蔵野市「相談件数及び相談者数集計 令和4(2022)年」

② 事業承継

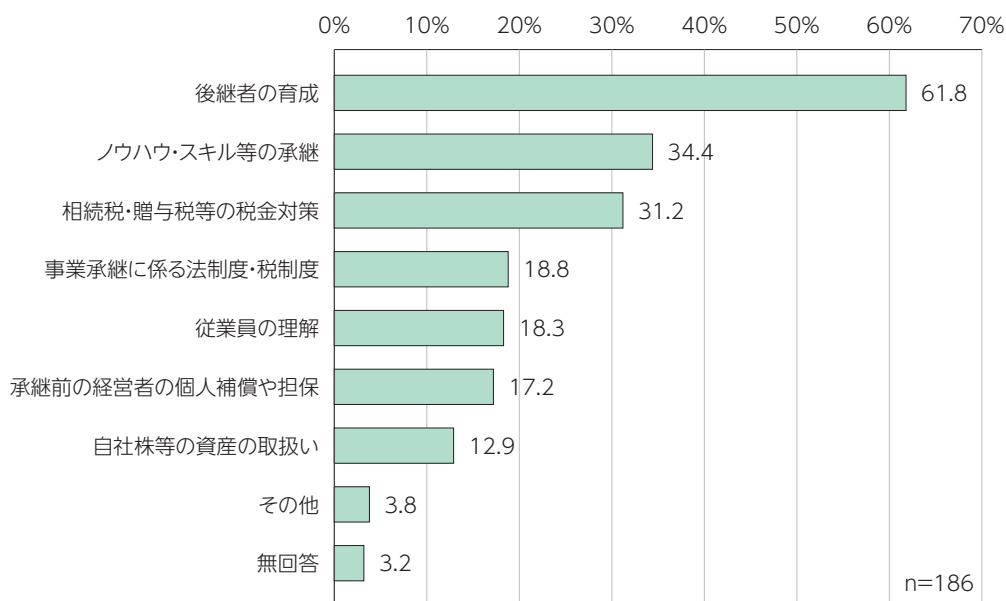
事業承継は、事業者にとってセンシティブな事柄であり、その実情が見えにくい側面があります。事業者アンケート調査では、後継者の状況について「承継しない」、「候補はいるが決まっていない」、「承継したいが候補がない」との回答が合わせて4割強、また事業承継を検討している事業者のうち、事業承継の課題として、6割強が「後継者の育成」、3割半ばが「ノウハウ・スキル等の承継」を課題と回答していますが、潜在的なニーズや表面化していない課題もあると考えられます。

事業者が育ててきた魅力ある事業は、貴重な地域資源です。事業承継を支援していくためには、丁寧にニーズの把握に努め、専門機関と連携しながら時間をかけて相談対応を行っていく必要があります。

後継者の状況



事業承継の課題点



出典：武蔵野市「武蔵野市事業者アンケート調査結果 令和4（2022）年」

(5) 安全・安心に対する意識変化と対応策の検討

世界情勢や異常気象による自然災害の激甚化、感染症の流行など、昨今の社会において、「安全・安心」が重要なキーワードとなっています。本市においても、事業者アンケート調査結果から事業者が望む武蔵野市のまちの方向性をみると、「治安が良く災害に強い安全なまち」が上位に挙がっており、関心の高さがうかがえます。

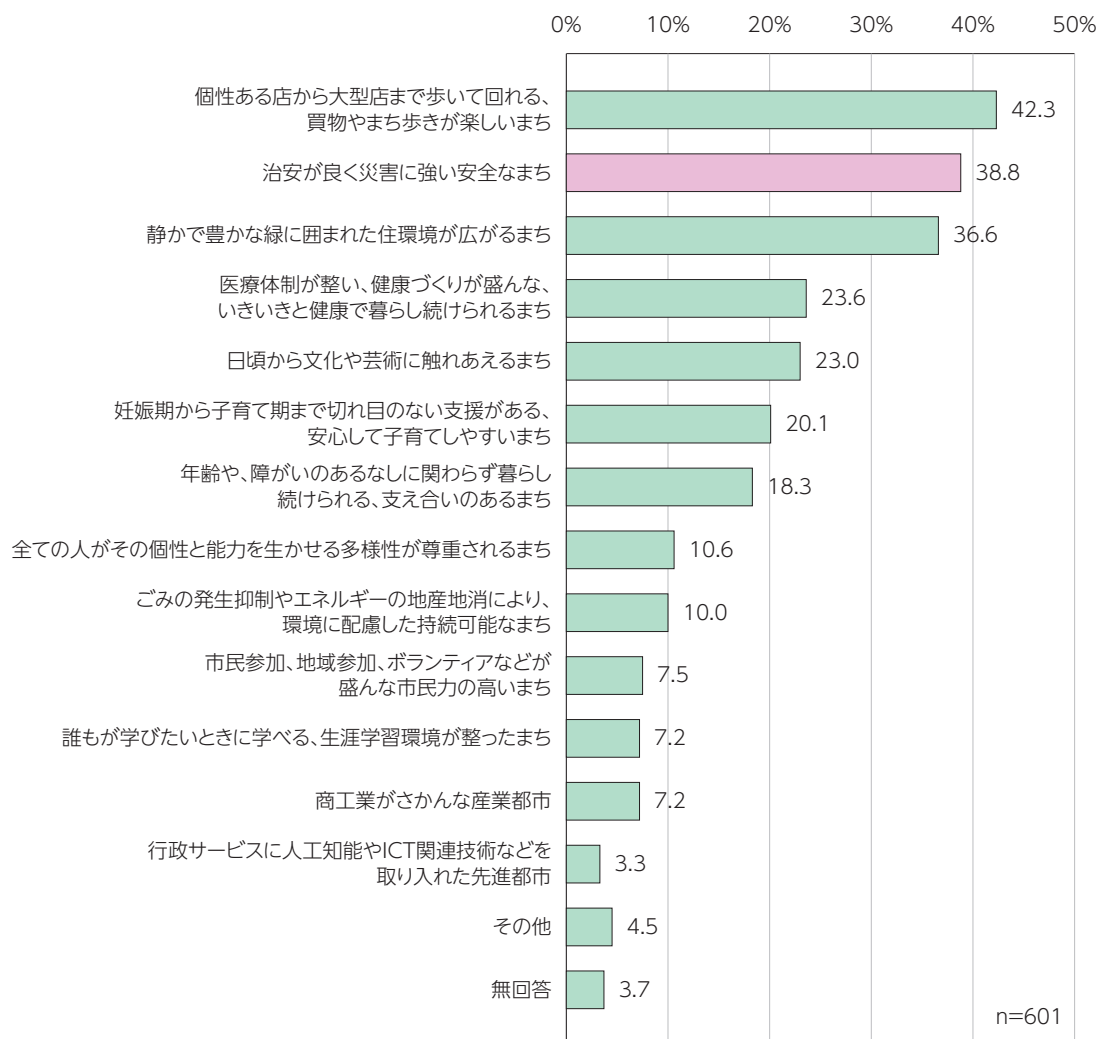
事業者は、自然災害や感染症などの緊急事態発生への備えや、事業継続のための対策を行う必要があり、市としてもコロナ禍を通じて得られた知見を、今後の経済危機への備えや事業者支援に生かしていく必要があります。

一方で、若者、子育て世代、高齢者、障害のある方や外国人等の市民や来街者が安全・安心に買い物や食事等ができるハード・ソフト両面からの環境づくりも求められています。

さらに、消費者被害の防止、エシカル消費*などの消費者教育、若年世代が事業や金融等について学ぶ機会の確保も、安全・安心への意識を高める取組みとして期待されます。

事業者と消費者の安全・安心に対する意識・関心の高まりを受け止め、コロナ禍を経て得られた知見を生かした支援策などの検討が求められています。

武蔵野市のまちの方向性



出典：武蔵野市「武蔵野市事業者アンケート調査結果 令和4（2022）年」

第4章 目指すまちの姿

1 基本理念

第六期長期計画・調整計画で示された武蔵野市の目指すべき姿の方向性を踏まえて、「武蔵野市産業振興計画」で設定され、「第二期武蔵野市産業振興計画」に引き継がれた基本理念を踏襲し、本計画における基本理念を以下のとおり定めました。

本市は緑豊かな住宅都市であるとともに、商業施設や飲食店が集積し、広域的な集客力を持つ吉祥寺駅を中心とした「吉祥寺地域」を有するほか、総合体育館や市民文化会館をはじめとした文化・スポーツ施設や市役所をはじめとする行政機関、オフィス機能が集積する三鷹駅を中心とした「中央地域」、農地や雑木林が残され自然豊かな住環境と、武蔵野プレイス*が市民活動や市民交流の拠点となっている武蔵境駅を中心とした「武蔵境地域」があり、市民のみならず多くの人々に親しまれるまち、多様な文化を発信するまちとして発展してきました。

この特性を生かしながら、都市や地域の抱える様々な課題に市民と事業者が一体となって取り組んでいくことで、人生100年時代*にふさわしい、誰もが安心して暮らし、働き、楽しむことのできるまちとして、取り巻く環境が時代とともに変化する中で、選ばれ続けるため、本計画の基本理念を次のように定めます。

“まちの魅力”を高め“豊かな暮らし”を支える産業の振興



2 武蔵野市の産業振興の方針と目標

前計画の策定時点からの社会・経済情勢等の変化と市内産業や商店会・事業者等が直面する課題や現況等に対応したうえで、本計画に掲げる基本理念を達成するために、以下の5つの方針を設定し、それに紐づく目標を達成するために各施策を展開するものとします。

方針1 武蔵野市の魅力や価値を高める産業振興

文化資源やクリエイティブ産業との連携、観光推進や都市農業の振興などに取り組むことで、まちの魅力や醸成し、活力と賑わいの創出につなげ、市内産業の価値を高めることをこの方針における目標とします。

《設定にあたっての主な関連項目》

社会・経済情勢の変化	4頁「1 新型コロナウイルス感染症の影響」、 7頁「3 情報通信技術をはじめとしたテクノロジーの進展と活用」
武蔵野市の産業の現況と課題	11頁「(1) 個性的で魅力あるまちづくり」

方針2 地域や学生等と連携して創る産業振興

商店会(街)・事業者への支援、子どもや子育て世代、学生等との連携、地域資源を活用した事業づくりなどに取り組むことで、市内産業の魅力や価値を持続可能なものとするための各主体との連携を図ることをこの方針の目標とします。

《設定にあたっての主な関連項目》

社会・経済情勢の変化	5頁「2 少子化による人口減少と高齢者比率の相対的な増加」
武蔵野市の産業の現況と課題	13頁「(2) 様々な連携の創出と促進」

方針3 都市の活力を担う持続可能な産業振興

経営や事業革新への支援、デジタル化・DX*への対応、事業承継支援、環境に配慮した事業活動の推進などに取り組むことで、本市の産業の活力を持続・発展させていくことをこの方針の目標とします。

《設定にあたっての主な関連項目》

社会・経済情勢の変化	7頁「3 情報通信技術をはじめとしたテクノロジーの進展と活用」、 8頁「5 気候変動・環境問題の深刻化」
武蔵野市の産業の現況と課題	15頁「(3) 事業が持続・発展する環境づくり」

方針4 個性を生かし誰もがチャレンジできる産業振興

学びなおし(リスキリング)への支援、ワーク・ライフ・バランス*に配慮した雇用環境づくりへの支援、起業・創業支援、伴走型支援*などに取り組むことで、個性を生かして「働き」・「チャレンジし」・「活躍できる」環境づくりを行うことをこの方針の目標とします。

《設定にあたっての主な関連項目》

社会・経済情勢の変化	7頁「4 働き方の変化・多様化の進展」
武蔵野市の産業の現況と課題	15頁「(3) 事業が持続・発展する環境づくり」、 19頁「(4) 起業・創業・事業承継支援」

方針5 事業者・消費者のための安全・安心な産業振興

まちを訪れた方が安心して過ごせるまちづくり、消費者教育の推進、経済危機に対する備えなどに取り組むことで、事業者や、来街者を含めた消費者にとって安全・安心な環境づくりを行うことをこの方針の目標とします。

《設定にあたっての主な関連項目》

社会・経済情勢の変化	8頁「5 気候変動・環境問題の深刻化」、 「6 原油高・物価高騰・賃上げの動向」
武蔵野市の産業の現況と課題	21頁「(5) 安全・安心に対する意識変化と対応策の検討」

3 各主体が一体となって進める方針と施策

(1) 産業振興に向けて ～つながり・推進する～

理念を達成するための方針とそれに関連する各施策は、本市の産業振興に関わるあらゆる主体がそれぞれの役割を認識し、連携・協働しながら進めていくことが重要です。そのため、市は、本計画を推進していくにあたり、各主体とつながりや連携の場を作りながら、まちが一体となって産業の振興を図れるように進めていきます。

(2) 各主体が担う役割

「武蔵野市産業振興条例」では、各主体の責務・役割を定めていることから、それぞれが担う役割等を改めて周知しながら本計画を推進することで、関連する方針・施策をそれぞれの意識の中に「自分事」として捉えられるよう努めていきます。

① 事業者

事業者(大型店舗等を含む)は、地域社会の一員として、商店会や商工関係団体の活動にも積極的に関わり、市民や来街者とともにまちの魅力を高め、市民等の生活を支える商品やサービスを提供することが期待されます。

② 産業経済団体(商工関係団体)

商工関係団体は、重要な産業振興の担い手として、市や他の商工関係団体と連携し、事業者支援や産業振興に関わる取組みを行うことが期待されます。

③ 商店会

商店会は、地域に密着したサービスを提供するとともに、魅力ある商店街づくりに努め、市や商工関係団体と連携しながら地域の活性化を図るとともに、市民や来街者にとっての地域コミュニティの1つとなることが期待されます。

④ 市民

市民は消費者であると同時に、地域産業を支えていく新たな担い手としても期待されています。市民は市内産業がよりよい生活環境につながっていることを理解し、市内産業や、市、商店会、事業者等が行う取組みにも関心を持ち、地域の一員として市内産業の活性化に関わることが期待されます。

⑤ 市

市は産業振興計画を策定し、その内容を積極的に周知・啓発などを行い、事業者、商工関係団体、商店会、市民などと相互に協力して産業振興を図る体制づくりに努め、産業振興施策を推進します。

4 つながる場の形成

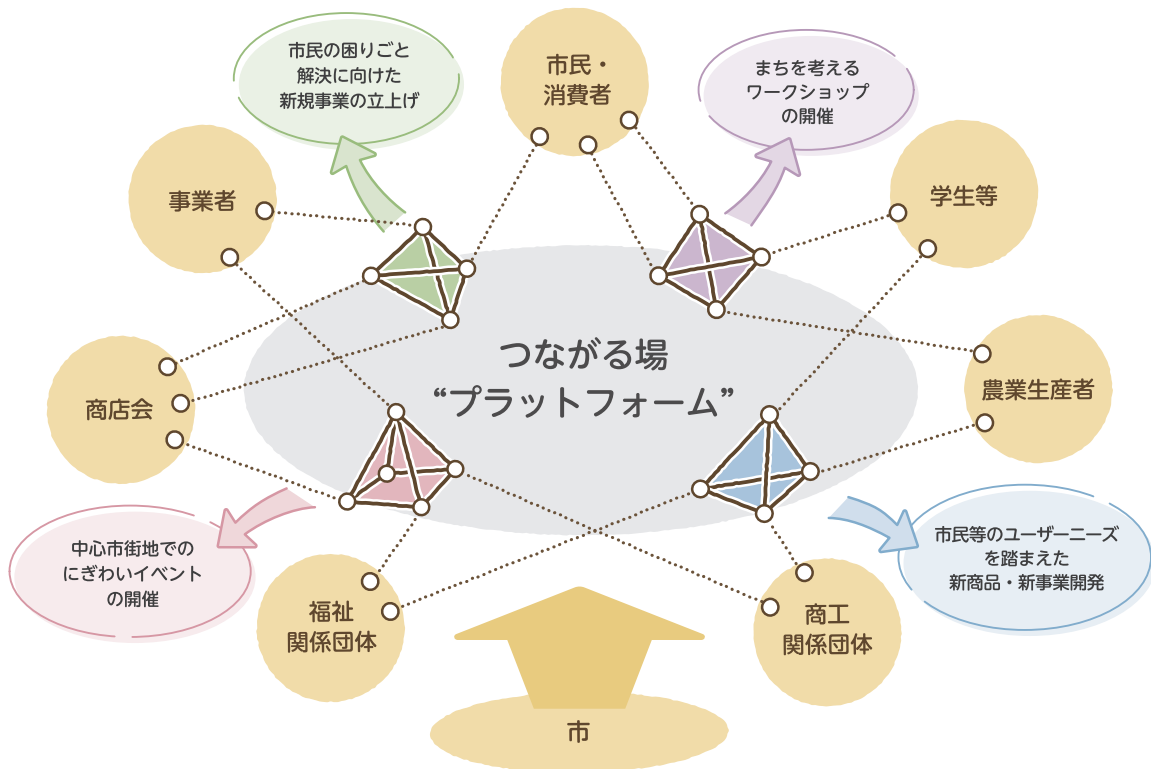
本計画策定に向けた産業振興審議会及び専門部会では、今後の市内産業の発展や商店会等における担い手の確保等の様々な課題に対応するためには、これまで主体的に取り組んできた事業者・商工関係団体だけではなく、多様な主体が参画できる情報交換・交流の場づくりが第三期武蔵野市産業振興計画の新たな展開として必要であるとされました。加えて、計画策定に伴い市民等の意見を広く聞くために開催したワークショップでは、子育て世代や大学生等の参加者からも、事業者・商工関係団体との意見交換の場や課題を共有して、ともに考える場があるとよいという意見が多く聞かれました。

そこで、市では、事業者が多様な主体と情報交換や交流・連携し、自らの課題解決やイノベーション*にチャレンジするためのプラットフォームの構築(ワークショップの開催等)を図ります。プラットフォームを通して、事業者や学生等が多様な主体との連携体を構築し、新たな事業や魅力の創造につなげていきます。このほか、つながる場の形成にあたっては、関係部署の連携も積極的に図っていきます。

また、様々な情報や参画者が集まることで、まちの魅力づくりやにぎわいづくり、地域課題の解決に関する事業の立ち上げや実施を推進します。

つながる場“プラットフォーム”のイメージ

情報交換・交流を通じて複数の多様なネットワークを創出します



*各主体は例示となり、参画する対象を限定するものではありません

5 私たちの暮らしとまちの産業

基本理念に基づき、産業振興施策を推進することにより、すべての市民が心身ともに健康で過ごせるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）なまちの実現を目指します。

そして、すべての市民が、それぞれのライフステージに合わせて楽しむことができるまち、チャレンジができるまち、活躍できるまちを目指します。



- 近くで買い物や食事ができる環境があると安心だね
- 商店会は地域のコミュニティとして大事にしてほしいな
- 地域の農産物の魅力がもっと伝わるといいよね

- 経験や知識を生かして働き続けられる環境だといいね
- 個性あるまちを楽しむファンが増えるといいね



- 生活に必要なものが身近で入手でき、商店会やまちの人に見守られて安心して子育てを楽しんでいます
- 子育てしながら市内でいきいきと働ける環境が整うといいよね

- 副業やキャリア形成について知り、取り組む機会がもっとあるといいな
- 学びなおしてスキルアップができる機会も必要かな



- 商店会等と学生が連携したイベントや事業があれば参加したい、そんな仕組みがあるといいな
- 将来は生まれ育ったこのまちで働いてみたいな

- 武蔵野市の産業を知って学ぶ・体験できる場があるといいな
- 商店会や地域で働く人たちとの関わりを楽しみたい

